

2013

Vol. 20

+

JAPANESE RED CROSS
SOCIETY FUKUOKA
PREFECTURAL CHAPTER
THE SPECIAL NURSING HOME
HOJUJEN

FRUIT FULL TREE



豊かな樹 ・ 豊寿園

人間を救うのは、人間だ。Together for humanity

 日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

トピックス
T O P I X

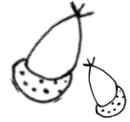


1.「長寿のお祝い」

平成二五年九月一六日、敬老の日「長寿の祝いの」式典を行いました。今年、百一歳一名、白寿五名、米寿五名の方々に表彰状が渡されました。これからも末長く健康で豊寿園で過ごしていただきたいと、職員一同願っております。



2. 平成25年度九州管内
災害基礎訓練



4. 松尾貴臣さん
慰問



3. 豊寿園家族会総会
開園記念行事



5. 豊寿園夏祭り

2

6月13,14日の二日間、福岡県内の赤十字施設(病院、血液センター、社会福祉施設等)の職員が集まり災害救護訓練が行われました。日本赤十字社では地震などの災害等に備え救護訓練を実施しており、今回の訓練には豊寿園より、介護職員の益田さんと前田さんが参加しました。

3

6月8日 平成25年度豊寿園家族会総会、開園記念行事が開催されました。今年も多くのご家族に参加いただきありがとうございました。

4

7月26日 松尾貴臣さんが慰問に来られました。全国の病院や高齢者施設、障がい者施設などを巡る「ホスピタルライブ」を開催しています。

5

8月3日 豊寿園夏祭りが行われ、皆さん楽しんでおり、今年も門司区合唱団に参加していただき、素敵な歌声を披露していただきました。

あなたと向き合った日々

HOUJUN × Family

ご家族様の介護に取り組んだ経験をお話いただくこのコーナー。今回、奥水課長のインタビューに応じてくださったのは、今泉アヤ子様のご長男(眺一様)夫婦です。



「認知症に気づかれたのはどのようなきっかけですか？」

義母は腰が悪く、午前中私と一緒に病院に通っていました。病院の後は毎日近所の義妹の店に顔を出したり、好きな食材を買いに市場に行ったりしていました。ある日、整形外科の先生から一日に三回も病院に来ていっていることを知らされ、初めて様子がおかしいことに気がつきました。整形外科の先生の紹介でデイケアに通うことになったのですが、しばらくすると、ほかの利用者に迷惑をかけるからと利用を断られたんです。当時のケアマネジャーから豊寿園のデイサービスを紹介され利用するようになりました。

「介護をされて困ったことは何ですか？」

財布がないという訴えが続くんです。それで「預かっているよ」と言うので安心するのですが、すぐに同じ訴えが5分おきにありました。仕方ないと思っても夜中に何度も「おねーちゃん」と起こされるので、さすがにつらい時もありました。でも義母は興奮したり声を荒げることもなく「うね」と聞いてくるので「冷静に寒いから休みましようね」と言っていました。

「今まで「わからん、わからん」「何がわからないのと尋ねる」「財布がないのよ」と言われますね。今泉さんにとって財布は大事なものの。「京子さん(お嫁さん)が預かっていました。」と伝えるととても安心した表情をされ「よかったです」と言われます。お嫁さんとい関係が築けていると感じているのですが、実際に介護をされているときはどうですか？

「本当に一度も喧嘩したことがないし、怒られたこともないんです。とても優しい義母です。でも主人とは遠慮なく言い合っていました。」「さっき言ったやろ」「みたいなことなんです。自宅が通りに面していたものだから二人の言い合いが始まると私は窓を閉めてまわっていました。(笑)「本当は気が強く頑固なんです。(長男・眺一様)「結局私は他人なので遠慮しているんですよ。私が入院する時に、ショートステイを利用するようになったのですが、主治医から特別養護老人ホームの入所も勧められ申し込みしました。すぐに入所の順番がきたと言われたのですが、一度は入所をキャンセルしました。まだ大丈夫と思ったので・・・」



「私は夜散歩に行っていた時期があったのですが、一度義母が私の後を追って家を出たことがありました。カラオケの先生を探しに来た」と言ったそうなんです。その後は、鍵を二重にしたりして夜外に出ることはなかったですね。義母は2階の部屋でしたが、階段の昇降を考えて1階に部屋を移しました。1階が狭いのでリホームをして部屋を作ったのですが、結局落ち着かなくて、外に出ては「ここ間違いない」と思って家に入っては『おかしい』と感じていたようです。

「北九州でも行方不明になる高齢者が多く私たちも心を痛めています。昨日まで散歩して自宅に帰れた人がある日帰れなくなってしまうのです。予測して行動することができずらくて、そのまま歩き続けてしまうことがあります。また環境の変化への対応が難しくなるようです。介護をするために必要になりホームが環境を変えてしまうことで、かえってご本人に混乱を招くことがありですね。ご長男ご夫婦は毎週木曜日、妹さんと夫婦も頻回に面会に来ていただき面会数では園が一番多いと思います。まだ皆さんがお見えになっても分かっておられ、とてもうれしそうな表情をされます。」

「義母は主人と一緒に私のことがわかるのですが、一人で来ると先生と呼ぶんです。少しわからなくなっているのかなと感じています。昭和五十九年に義父が亡くなり、それまで営んでいた質屋を廃業し義母は一人暮らしをしていました。近所にも義妹たちもいましたし、転勤族の私たちが同居したのは平成六年です。同居を始めると「自分のことは自分でする」ととても気丈でした。この話(あなたと向き合った日々)

「ご家族が昔の懐かしいお話を一緒にする、そばで懐かしい歌を唄う。顔を見るだけ手を握るだけでも認知症の人たちの心が温かくなるのをそばで見ている感じがします。私たち介護職員の力だけでは足りないことを感じるときです。ご家族の皆様のご協力にいつも感謝しています。一日一日を健やかに過ごせるようご家族とともに見守り続けたいと思います。本日は貴重なお話をありがとうございました。」

福祉一〇メモ

高額医療合算介護サービス費

<高額医療介護合算サービス費を知っていますか？>

医療と介護保険の両方のサービスを利用している世帯の負担を軽減する制度です。世帯内で同じ医療保険に加入している人が1年間に支払った、医療保険と介護保険の自己負担額を合計し、基準額を超えた場合に支給されます。

計算期間

毎年8月から翌年7月までの1年間に支払った自己負担について合算します。

支給要件と支給額

合計するのは、世帯内で同じ医療保険に加入している人が一年間に支払った、医療保険と介護保険それぞれの自己負担額です。合計額が下表の限度額を超えている場合に、その超えた額が支給されます。

申請

高額介護合算療養費の支給を受けるには、計算期間中に支払った自己負担額について、国民健康保険と介護保険の両方に申請が必要です。

現在加入している医療保険の窓口(例えば国民健康保険ならば、各区役所国保年金課)に、1年間同じ保険に加入していた場合は保険証、印鑑、通帳、途中加入の場合はそれに加え自己負担申請書を持っていきます。

所得区分	後期高齢者 医療+介護 保険	医療保険+介護保険	
		70歳以上 75歳未満	70歳未満
上位所得者	67万円	67万円	126万円
一般	56万円	56万円	67万円
市民税非課 税者	区分Ⅱ	31万円	34万円
	区分Ⅰ	19万円	

お問い合わせ先
 お住まいの区の区役所国民年金課及び保健福祉課介護保険担当

介護一〇メモ

『認知症の対応』について

『あなたと向き合った日々』に出てきました、『認知症の周辺症状』今回は何を聞いても『わからない』と返答される利用者様に豊寿園ではどのように対応をおこなっているかを紹介したいと思います。

『認知症』とは

一度獲得した知能が、脳の器質的な障害により持続的に低下したり、失われることをいいます。記憶・記憶力・思考力・計算力・判断力・見当識の障害がみられ、知覚・感情・行動の異常を伴ってみられることが多くあり、なかでも被害妄想や帰宅要求は多くの利用者に見られる症状です。

被害妄想や帰宅要求がでた場合は、じっくりと話を聞くことから始めます。

「わからん」と言われることに対して、「大丈夫よ」というだけでなく、何が「わからないのか」「どうしたいのか」を本人に聞き、本人が納得するまで話をします。そうすることで、本人の思っていること、考えていることが見えてくるからです。

認知症のかたの対応は人それぞれであり、正解がありません。不安や心配に思っていることを根気よく聞き、一方的に解決するのではなく、認知症のかたと一緒に本人が納得するような関わりから解決策を導き出すことが大切ではないかと思います。



私の作品どこかなあ



皆さん上手に作っているね



可愛い鯉のぼりありがとう



一緒に短冊を書こうね



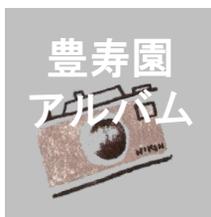
また遊びに来てね。待っているよ



よさこい節！！ソーレン、ソーレン



手拍子でリズムをとって♪♪



あなたの笑顔が見たいから・・・



みかんの花咲く丘♪♪



ハッピーバースディ おめでとう

季節にそって色々な行事をおこなっています。いつでも利用者様が笑顔になってもらえるように企画しています。



一緒に記念撮影。ハイチーズ

○編集後記(editorial note)

いつまでも暖かい日々が続いていましたが、11月中旬に朝晩の冷え込みが厳しくなり、ようやく秋を感じるようになりました。周りの山々はきれいに紅葉することなく落葉しそうですが、豊寿園の中庭のみじはきれいに紅葉し皆さんの目を楽しませています。

さて、平成25年度広報委員は6月より新メンバーに変わりました。新しくなった広報委員を紹介したいと思います。



岩藤 忍
担当記事 : 介護一口メモ
これからも記事作成がんばって
いきます。



井上 翔平
担当記事 : 豊寿園アルバム
これからも宜しくお願いします



信田 雅文
担当記事 : 豊寿園アルバム
広報紙で 豊寿園について
知って頂けたら幸いです



桑野 哲也
担当記事 : 豊寿園アルバム
よろしくお願いします



初瀬 千絵
担当記事 : 介護一口メモ
新人ですが 頑張っていきます。

今回は2階介護職員を中心に紹介しました。次回は1階介護職員やその他部署の紹介をしたいと思います。これからも、皆さんに楽しんでもらえる広報紙を作成したいと思います。また、豊寿園での日々の出来事はホームページのブログでも紹介していますので、ぜひ見て下さい。広報委員一同、頑張っていきます。

地域ぶらり情報

樹木のトンネルを抜けると・・・

豊寿園に勤務する職員がお勧めの地域情報を紹介するコーナーです。

今回ご紹介するのは、**FOREST (フォレスト)** です。



国道線より入った静かな住宅街の一角に木造の門があります。

その奥には、樹木のトンネルが続いており、一步踏み入れると、まるでトトロが現れるのではないかと思わせます。トンネルの奥にあるカントリー調の建物が『フォレスト』です。

店内にはアンティークの食器や家具、雑貨を取り扱っており、その奥には、イベントに展示している小屋やガーデニング雑貨などが置いてあります。



お店のご主人は建築、造園を手掛けておりガーデニング雑貨を造ったり、お店の装飾も行っているそうです。今年5月に『アンティ

ーキング・イン・門司港レトロ』というイベントに行きました。アメリカの蚤の市をイメージしたもので、その時に職場の近くのフォレスト舎さんが主宰と聞いていたんですが、まさかこんな近くに、こんな素敵な空間があるなんて・・・。

ガーデニングやアンティーク好きの方はきっと好きになるとと思います。一度足を運んでみてください。

- アンティークショップ
FOREST (フォレスト)
- 建築、造園工房
フォレスト舎

北九州市門司区栄吉志4-4-10

TEL 093-483-3980

営業時間金:土・日・月 11:00~18:00

定休日:火・水・木





9月14日、World First Aid Day(世界救急法の日)に合わせてイオンモール福津にて**赤十字フェスティバル**が開催され、豊寿園職員も参加。今年は九産ライダーイノセントと一緒にAED操作体験を行い、家族と一緒に沢山の子供たちに体験していただきました。



5月26日**もじみなと祭り**のパレードに参加。門司区地区赤十字奉仕団の皆さん、JRC加盟校の中学校、藤松小学校の児童クラブの皆さんと一緒にパレードをおこないました。今年は大里のパレードにも参加し、沿道の皆さまより温かい声援をいただきました。

あなたと私と赤十字



5月11日
統一ボランティアデー

北九州赤十字看護奉仕団
じゅんの会の皆さまと門司港駅周辺の清掃活動。



8月6日
門司区に住む小中学生対象の**福祉体験講座**
利用者との交流や自助具を使ってソフト食の体験をしました。
じーもとプチボも一緒に車いす操作の説明を真剣に聞いていました。

9月24日
門司区地区各校区赤十字奉仕団交流

認知症のついての研修の後、皆様に花壇の整備をおこなってもらいました。



10月18日
丸山校区福祉協力員見学会
施設見学後、認知症の予防についての研修を受けられました。





日本赤十字社

We are volunteer

赤十字活動を支えるボランティアさんを紹介するコーナーです。

約十年前前に、「北九州赤十字看護奉仕団じゅんの会」の古賀さんに「ギターと歌で豊寿園の利用者さん達をたのしませてあげて。」と誘われ、「まあ、やってみようか。」と軽い気持ちで始めました。音楽を通してどのように高齢の方と接するかは、音楽療法の本を参考にしてみました。歌集を見て唄ったり、見ないで思い出しながら唄ったり、唄に合せて体を動かしたり、触れ合ったり、できるだけ楽しい雰囲気作り心がけています。今こうして原稿を書いていると、今までに会った人たちの顔が浮かんできます。笑顔あり涙あり、怒られたこともあります。唄う時に声が出ていなくて「楽しくないのかな」と思っていたら足や指で拍子をとっていた



加嶋 明洋 さん(中央)
北九州市赤十字看護奉仕団
じゅんの会

十年前より毎月 第二火曜日
入所棟やデイサービスで、奉仕
団の古賀さんと児玉さん一緒
にギター演奏と唄のボランティア
をしていただいています。



りします。無表情で、体が動いていなくても歌詞通りにくちびるがかすかに動いているのを見た時は、とても感動しました。そして同時に歌の持つ「力」も感じています。これから皆さんと歌を通して触れ合い、感じ合いたいと思います。私は今年六十四歳になりました。仕事の他に音楽活動、他のボランティア活動があり、正直疲れて「休みたい」と思う時があります。でも皆



さんと大きな声で唄うと、帰るときには元気になっています。ボランティアをする方が良く言う事です、「自分達も元気をもらっている」のは確かです。唄える間はいつまでも一緒に唄いましょう。最後に皆さんと感動できるきっかけを作ってくれ、私をいつも支えてくれた古賀さんに感謝します。

お知らせ



平成25年度下半期の入所待機順位が決定いたします

第三者委員の出席のもと、入所待機順を検討する会議を行い順位が確定いたします。12月初旬には待機順位をお知らせいたします。今回の待機期間は12月1日から翌年5月31日までとなっています。入所順位の進捗についてはホームページ上で確認いただく事ができます。

豊寿園ホームページ <http://nissekihoujuen.jp/>



豊寿園の嘱託医が変わります！

12月より豊寿園の嘱託医が渡辺胃腸科医院に変わることとなります。
渡辺胃腸科医院 〒800-0112 門司区大字畑1423番地10 TEL 093-481-3225

特集 「世界とむっとクロス」
특집 세계와 더욱 크로스 계획

X KOREA



こんにちは！
私はこのセンターの栄養士、ソン・スンヒです。
センターがオープンしてから1年が経とうとしています。暑い夏の日、ぎらぎら照りつける日差しの中を南山の中腹まで、汗をたらだらと流しながら上り坂を通った記憶をおぼろげに思い出します。施設の土台を工事する過程から、再補修するまでの過程をそばで見守り開園した施設なので感慨もひとしおです。

栄養士として勤務している間、顧客の特性と年齢別の好みを考慮し、多様な献立を作成し、提供してきたので自信をもって業務へ臨みました。しかし栄養を重点とし施設の利用者の味覚を考慮するのは、それほど簡単ではありませんでした。化学調味料と塩辛い味に慣れている食習慣の利用者には、調味料を完全に排除し、自然材料で作ったタレ(昆布・鰹・大根・ねぎ・きのこ・えごまの粉・ゴマ・液汁など)で調理し程よい味に整えましたが、口に合わず、おいしくないと言われました。

「私があとどれほど生きろるか・」食事をもたもたにできなくなる「食事が口にあれば食べるさくこれを食事だ」というのか・」など腹を立てる利用者たちも、時にはいらつやいました。今ではすべての生活に慣れて食事をまともに飲み込まなかった利用者がよく食べるようになり、体もきちんと支えられなかった利用者が、ある程度は自らで支えられるようになり、食事も口に合わないと不平を言うていた利用者もある程度は食べるようになり、入所した当初より健康状態もとても良くなった利用者たちを見ながら、仕事にやり甲斐を感じています。このすべてのことが介護士、社会福祉士、看護師、栄養士、物理治療師など全職員たちが各自の立場で、利用者たちをひとつの家族のように世話をしながら生活した結果だと思っています。

その間、いろいろな業務がありました。その中で何個か簡単に紹介します。

去る7月末ごろ、国民健康保険公団から隔年で実施している療養施設評価がありました。開園して1年もならず、今ようやく安定してきたという状況の中での評価準備はとても大きな負担としてやってきて全職員が一生懸命準備し、評価団から誠意の限り準備されていますという評価をいただきました。もちろんこの結果は来年2月になつてから知らされます。

評価を終えた暑い夏の終わり8月末頃、このセンター職員たちのワークシヨップがありました。日常から離れ自然





HOUJUN

の中で過ごす1泊2日は職員たちには大きい活力素になりました。各自の立場から感じた支障事項や、施設の発展のための建議事項、そして従事者たちのストレスの癒しとして「私の声をどうかきいてください」という発表の時間も持ちました。余暇時間の中で一番記憶に残っていることは、雨の降る日、渓谷で魚をとってメウンタンを作って食べたのが童心に戻った時間でした。皆が一つの心となり、楽しい時間を過ごし帰ってきて心機一転、利用者たちに、もっと誠意を尽くしてサービスを提供しています。

去る9月7日は保護者達と共にする2回目のファミリー・リンクプログラムがありました。
 保護者の懇談会食として進行了この時間は、療養センターと保護者達と苦しい心の内を分かち合う時間でした。特に保護者たちの心の声を聞く時間があつたのですが、この時間は他の保護者達に多くの共感を感じさせてくれる貴重な時間になったようでした。
 保護者の配偶者であるおばあさんの前職は音楽の先生であり、保護者であるおじいさんの前職は教授でした。かつてのおばあさんはユーモアがありいつも周りの人たちを楽しませて、学生たちを愛する心は天使のようだったそうです。8年前ある日の夜、横にいるはずのおばあさんが見当たらず、探し回る中、派出所で寝巻き姿のまま座っているおばあさんを発見し帰宅されたそうです。この様に前ぶれもなくやってくる認知症という病気は配偶者にとっても大きな衝撃で、全く気を使ってやれなかった思いやりのない月日を後悔されたそうです。おばあさんの世話をする中、腰の具合が悪くなり施設を探していたとき、家から近く、南山へ位置する私たちの施設におばあさんをお連れするようになり、いつも心はおばあさんがいる施設から離れることができません、毎日朝晩、おばあさんに会いに来られます。
 このように施設へ入所している利用者の保護者たちの事情のひとつひとつが気の毒であり、心に痛みを感じます。私たちセンター職員たちも、利用者たちにもっと誠意を尽くしお世話をしながら、また保護者が安心して生活できるように最善を尽くす施設としてさらに変わると、今、この時間も努力を傾注しています。



2013

Vol. 20

+

JAPANESE RED CROSS
SOCIETY FUKUOKA
PREFECTURAL CHAPTER
THE SPECIAL NURSING HOME
HOJUEN

豊
か
な
樹

F R U I T F U L L T R E E



豊
寿
園